

第8 廃棄物分野における国際協力

資源循環局では、海外諸都市における廃棄物に関する課題解決に貢献するため、海外からの視察の受入れや、これまで横浜が培ってきた経験や分別・リサイクルのノウハウ、市民・事業者・行政が協働して進める3R^{スリーアール}の取組の紹介等を行っています。また、国際会議等にも積極的に参加しています。

視察の受入実績

年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
件数(人数)	16件(299人)	12件(139人)	12件(171人)	29件(517人)	31件(363人)

1 Y-PORT 事業の推進

(1) ベトナム社会主義共和国ダナン市への協力 ～JICA 草の根技術協力事業～

平成28年8月に、ダナン市での分別促進事業がJICA 草の根技術協力事業に採択され、ダナン市職員などの関係者を対象とした分別・リサイクル業務などに関する本邦研修や現地への専門家派遣によるノウハウ・経験の共有を行っています。また、本事業は、公民連携の取組として、市内企業にも協力いただきながら、事業を進めています。

【事業概要】

事業名：家庭系廃棄物の分別促進モデル事業「ヨコハマG30／3R^{スリーアール}夢の水平展開」

実施期間：平成29年3月から令和2年3月

目標：モデル地区における3R^{スリーアール}推進に向けたアクションプランの策定、ごみ分別に係る市民意識の向上、リサイクル・廃棄物管理システムの導入

【平成30年度における主な取組事項】

5月：現地への専門家派遣

7月：第8回ダナン都市開発フォーラム等への参加

11月：本邦研修の実施

(2) フィリピン共和国セブ市等への協力

市内企業が、本市との合同現地調査やJICAの普及・実証事業などを経て、廃プラスチックを選別・粉砕し、石炭の代替燃料を製造するリサイクル事業を現地で展開しています。同企業は、環境省の支援のもと、平成29年5月に新たな廃プラスチックリサイクル工場を整備しました。最終処分場のひっ迫などの廃棄物課題に対し、引き続き、同企業の経験なども生かしながら、セブ市等への支援を進めます。

2 アフリカの廃棄物管理向上への協力 ～アフリカのきれいな街プラットフォーム～

平成 29 年 4 月、環境省・JICA が、横浜市・国連環境計画(UNEP)・国連人間居住計画(UN-HABITAT)・アフリカ各国・都市と共同で、アフリカにおける廃棄物に関する知見・経験の共有、SDGs(持続可能な開発目標)の推進等を行うための場としてプラットフォームを設立しました。

その中で横浜市は、これまでの廃棄物管理の知見・経験や先進的な技術が評価され、本邦研修の拠点として位置づけられており、これまでに令和元年 8 月時点で計 4 回の研修を実施してきました。

今後も、プラットフォーム等を通じてアフリカへの廃棄物分野での協力を進めていきます。

【アフリカのきれいな街プラットフォーム研修(ACCP)の概要】

ミッション：2030 年までにアフリカ諸国がきれいな街と健康な暮らしを実現し、廃棄物管理に関する SDGs を達成する。

構 成 員：アフリカ各国・都市、環境省、JICA、横浜市、国連環境計画(UNEP)、国連人間居住計画(UN-HABITAT)等

【30 年度における主な取組事項】

6 月：第 1 回全体会合(モロッコ・ラバト)にて第 1 回本邦研修の報告

8 月：第 2 回本邦研修の実施

12 月：過去実施した本邦研修のフォローアップ(エチオピア・アジスアベバ)

2 月：第 3 回本邦研修の実施

3 国際会議等への出席

廃棄物分野に関する国際会議等へ積極的に参加し、海外諸都市の状況把握を進めるとともに、本市の廃棄物管理の取組について知見・経験の共有を行っています。国際会議等への参加を通じて、新興国などにおける廃棄物に関する課題解決への貢献や国際社会における横浜のブランド力向上を図るとともに、局内の国際人材育成にもつなげていきます。

【30 年度における主な取組事項】

4 月：第 8 回アジア太平洋 3 R 推進フォーラム(インド・インドール)
スリーアール

7 月：エコフォーラムグローバル 2018(中国・貴陽市)

10 月：TICAD 閣僚会合サイドイベント(東京都)

世界循環経済フォーラム(横浜市)

アジア 3 R 自治体間ネットワーク会合(横浜市)

11 月：全アフリカ市長村長サミット(モロッコ・マラケシュ)